

特集 会員増強・新クラブ結成推進

ロータリーはもっと自由になれる 広がるクラブのかたち

新しいかたちのクラブ、社会課題をテーマにしたクラブ、若い世代が中心のクラブ。さまざまなかたちのロータリークラブが、日本各地で生まれています。これら新しいかたちのクラブに新会員が次々入会しています。新しいかたちのクラブの可能性を探ります。



時間とコストを奉仕に再配分するクラブ



福岡エアポートRC 田村 志朗

2025年12月、地区で13年ぶりとなる新クラブとして誕生した福岡エアポートロータリークラブ（RC）は、会員数26人。月2回、第1・第3水曜日の昼に45分間の例会を行い、対面とオンラインを組み合わせたハイブリッド形式を採用しています。従来のクラブ運営に見られる時間的・経済的負担を見直し、現代のライフスタイルに適合する新たな在り方を模索したことが、その出発点にあります。

前提を見直すという発想

創立の背景には、「志ある現役世代が無理なく参加できるロータリーを実現したい」という思いがありました。

従来のやり方を前提とせず、不便を見直す“在り方の発明”として、例会は食事を伴わない45分に凝縮。さらに事務局を置かず、ITツールを活用した自前運営によりコストを抑えています。こうして生み出された時間と資源は全て奉仕へと再配分され、全会員によるロータリー財団や米山記念奨学会への寄付も仕組みとして組み込まれています。

45分例会とスマホ運営の実態

運営面では、出欠確認や各種決済をスマートフォンで完結させ、専任事務局を必要としない体制を構築。役割は会員間で分担し、効率的なセルフマネジメントを徹底



しています。例会はハイブリッド形式で、場所にとらわれず参加できる柔軟性を持ちます。一方で、「一業種一人」という原則は厳格に守り、異業種同士が補い合う関係性を維持しています。こうした取り組みは、地区からも注目を集めています。なお、例会後には空港内で希望者同士が自由に会食し、交流を深める柔軟なスタイルも取り入れています。

現役世代が参加しやすい理由

このような設計は、多忙な現役世代にとって大きな魅力となっています。短時間で参加でき、費用負担も抑えられる一方、自らの会費が直接奉仕に生かされる実感があります。結果として、従来の枠組みでは参加が難しかった層の入会を促し、会員の参加意欲の維持にもつながっています。

#1 独自モデル型 クラブ

特徴	
	45分例会 短時間で効率よく、忙しい方でも参加しやすい設計です。
	費用 入会金：2万円 / 年会費：18万円
	食事なし 無駄なコストを徹底的に削減します。
	スマホ運営 手続きや連絡をデジタル化し、運営を効率化しています。
	奉仕への還元 浮いた時間と費用を、奉仕活動へ充てています。

あなたのクラブと比べてみましょう



上：点鐘する田村会員。「一業種一人」の原則は厳格に 右上：例会場は利便性の高い福岡空港に設置することで、集まりやすい

空港拠点と地域密着の両立

活動拠点は福岡空港内。国内外へのアクセスに優れた立地を生かしつつ、これまでロータリーの空白地帯とされてきた須恵町との連携を進めています。都市型でありながら地域密着型の奉仕を志向し、まずは同町への具体的支援からスタートしました。

再現可能なクラブモデルとして

「食事なしの45分例会」と「事務局を持たないスマホ運営」。一見すると大胆な変革ですが、その本質は、時間とコストを見直し、限られた資源を奉仕へ振り向ける合理的な設計にあります。従来の前提を問い直し、参加しやすさと奉仕の質を両立させる当クラブの取り組みは、会員増強と維持に課題を抱える多くのクラブにとって、再現可能な一つのモデルとなり得ると思います。

(第2700地区 福岡県)